

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100372		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	佐賀県 佐賀市 西与賀町 大字屋外1236-7		
自己評価作成日	令和2年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年2月19日	外部評価確定日	令和2年3月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりが自立した生活ができるよう、また「そのひとらしく」過ごして頂けるようにプライバシーに配慮し、家事を中心とした自立支援を行っている。建物が閑静な住宅地にあり、人通りは少ないが通学路なので、近所の方や子供たちが建物の前を通る時や利用者との散歩時は挨拶や声かけを行い、社会との接点を感じられるよう努力している。草花・野菜を植え季節感を感じて頂けるようにしている。入居者さんは、高齢化や認知症の進行により年々身体機能は低下しているが、極力屋外に出られるよう外出支援に取り組んでいる。地域の催しや同法人で行われるクリスマス会や習いごと教室等に参加し交流を図っている。また外部より慰問していただく機会も設けている。食事は、生活の中での大きな楽しみの一つなので、利用者の好みを反映させ、好きなものを取り入れている。また季節を感じられる食材を使いメニューを考え、炊事への参加も積極的に行っている。毎年敬老会では家族との交流の機会をもっており、また本人と家族の繋がりを維持するべく、法事などへの参加も働きかけている。包括支援センターや医師とも連携を密にしながら、本人のみでなく家族を支える支援にも取り組んでいる。日頃から家族には、利用者の健康状態や生活状況を伝え、家族と共に利用者を支援できるよう心掛けている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>母体の医療機関を始め、特別養護老人ホームや通所介護施設、訪問看護ステーション等も有しており、事業所はそれぞれの機能を活かした連携が図られている。職員は理念に掲げた「認知症のある人は私たちの鏡である。ケアをする人の姿勢が相手に伝わる」を実践しており、利用者の意思を尊重したケアが行われていることが窺える。また、家族から意見を汲み取れるよう、アンケートが実施され、その結果は公表され、利用者それぞれの家族にも説明し返答している。利用者は季節に合わせたドライブや地域住民も参加している歌声喫茶などに参加し、楽しみながら穏やかに過ごしている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性や以前の生活を大切に、施設では先輩として尊敬の念を持ち、「その人らしく」生活できるよう支援することを理念に掲げている。職員は理念のカードを常に携帯し、一人ひとりの利用者の立場に立ち支援するよう努めている。利用者との関係は「合わせ鏡」であることを常に意識して行動している。利用者の加齢により介助量は年々増加しているが、理念の共有と実践はよりつながってきている。	地域密着型サービスの役割を踏まえた理念は、母体となる基本理念とともに玄関や事務室など目に付きやすい場所に掲示され、また職員の名前ホルダーに理念を入れて意識付けを図っている。職員は理念を共有しながら利用者に寄り添ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(集い)に参加し交流を図っている。運営推進委員の自治会長や民生委員・回覧板にて、地域の年間行事や防災に関する情報提供をいただいている。地域の文化祭にも作品を出展・校区の防災訓練にも参加。駐車場が狭く、時々隣の方の駐車場をお借りしたり、散歩の途中ではご近所の方と挨拶を交わしており、季節ごとの野菜や果実をいただくこともある。更に困りごとや急な体調不良などの相談や、施設内の見学にも応じている。	自治会に加入しており回覧板も届いている。近隣住民とは挨拶を交わし、野菜や果物などいただくこともある。また利用者は地域の人が参加している歌声喫茶にも参加している。専門知識と地域貢献を活かし、学生の体験学習も受け入れている。今後も地域との繋がりを大切にし、非常時などには協力を頼める関係ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のみならず介護全般の相談にのる体制は整えていて、相談・見学には対応している。ボランティア・職場体験・実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の健康状態や活動の報告を行っている。また包括支援センターからの最新の情報も頂き、サービス向上に活かすよう努めている。2ヶ月に1回開催しており、意見は口頭や回覧を通し職員全員に伝達・共有し、サービス向上に活かす努力をしている。	メンバーには自治会長、民生委員、教育委員、家族代表、行政職員等の参加で2ヶ月に1回開催され、事業所の報告のみではなく双方向な意見交換の場であり、避難訓練への参加協力等が提案されている。また、外部評価についても説明と結果報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の福祉担当者や包括支援センターと連絡を取り合う体制は整えている。利用者では成年後見人制度を利用されている方がいる。運営推進会議に参加してもらい協力関係を築いている。	行政側の担当者とは運営推進会議や地区の行事、また外部での研修時にも顔を合わせる機会はある日頃から顔馴染みである。問い合わせや相談事には、実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容は全職員が理解している。身体拘束ゼロを実施。日中玄関は施錠していない。利用者の状態により、施錠する場合がある。身体拘束に関わる指針は廊下の目に付きやすいところに掲示している。また身体拘束についての研修にも参加・共有しながら、日頃の行動・言動を振り返る機会としている。	入居契約時には指針の説明をしており、全ての職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。法人内外での研修に参加し、受講した職員は持ち帰って伝達講習も行っている。日中の玄関に施錠はなく、チャイムで対応しているが、行動を抑えることもなく職員の見回り等で安全で自由な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し情報を共有・随時話し合うことで職員一人ひとりの虐待に対する認識の確認をしている。職員同士で言葉遣い等も含め注意しあう努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用されている方がおられる。運営推進委員でもあり、ご意見をいただき共有している。権利擁護に関する制度については更に学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に説明を行っている。質問に対しては理解していただけるまで話し合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、利用者との会話から意見要望を聞いている。家族からは面会時に話を聞き、申し送りやGH会議で職員全員に意見や要望を伝えている。外部に対しては、運営推進会議等で意見を伝えている。家族は毎年代表者1名に参加してもらっている。(ご意見・苦情BOXを設置している。	利用者全員の家族の来所は難しいが、来所持は世間話等も交えながら何でも話してもらるように努めている。また年1回家族を対象に「利用者満足度調査」を実施し、サービス向上に活用している。その中で出た意見は真摯に受け止め、必ず解決策を家族に伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のGH会議では勿論のこと、日々気づき等あるときは、その都度意見を聞いている。必要に応じ代表者(法人)に職員の意見を伝え、人材確保や業務の改善・運営に反映している。	毎月の職員会議は全員参加で行われ、利用者毎のカンファレンス及び日頃の気付き等を細かく話し合っている。管理者は職員の意見や提案等を聞き調整を図りながら、必要に応じて意見等を代表者に伝え運営に反映させている、	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度あり、整備・活用している。勤務表作成前には職員に希望休を出してもらうことで調整を行い、ワークライフバランスを考慮し、働きやすい工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する施設外研修や職員に必要と思われる施設外研修に参加させている。研修内容については、GH会議と報告書で報告の場を持ち全職員で研修内容を共有している。施設内でも研修を行い、職員全体のレベルアップに努めている。管理者は必要によりアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にも積極的に職員を参加出来る様にし、他施設職員等と交流・情報交換を行うよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話や訴えはもとより表情やしぐさから気持ちを察するよう努力し、傾聴と共感する姿勢で関係づくりに努めている。他施設入所中の場合は、当事業所から出向き、本人の生活状況や、精神状態を細かく探り、関係づくりに活かす努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞き、困っていることや不安なこと、要望などを聞き取るようにしている。ケアマネ・家族より情報を収集し、些細なことでも話していただけるような態度で接し、安心して頂けるよう心がけている。また入所後も常に入居者・家族からの意見に傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	より良いサービスの利用が出来るよう対応している。福祉用具や医療連携の説明など、また他のサービス利用の方が適当と思われる場合は、その紹介も行っている。最終的に本人と家族が納得して利用して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過し、残存機能をいかし出来ることは、自分でして頂くよう努めている。利用者から「生活の知恵」を学ぶ機会も多く、お互いに助け合い生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「お便り」の他、こまめに連絡を行い、現状を伝えることで認知症の進行や体調を理解して頂き、家族と共に支えていく関係を作る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	祝い事・法事や墓参りには、出来るだけ参加して頂く様家族に働きかけ、親戚やご近所の方と会える機会を作ってもらっている。馴染みの場所に立ち寄って頂きご近所の方との触れ合う機会を作ってもらっている。職員は情報を収集し、それをもとに会話したり、ドライブ等の外出時は、自宅近くや町内の様子を見て頂いている。	利用者の高齢化で馴染みの人の訪問は少ないが、知人の訪問時は自室でゆっくりくつろいでいただけるよう湯茶の接待も行っている。通院やドライブの折には、自宅付近へ回り、自宅や周辺を眺めてもらっている。また、家族の協力を得て、身内の行事への参加や墓参り等が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者同士の関係を把握し、状況を共有しながら支えあっている。一人で孤立しないよう、会話ができるよう場所をセッティングしたり、難聴や視力が弱い方には職員が話の仲介に入り、説明を行い利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行くように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援体制は整えている。入院の場合は、面会に行く機会を作っている。職員も家族と入院先や買い物等で会った場合は、挨拶を交わし情報交換し家族の労をねぎらう姿勢で接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で利用者の思いに傾聴するようにしている。家族からの情報や直接利用者に希望を尋ねることも多いが、困難な場合は、利用者本人の日常の言動や行動から意向を察し、毎日の申し送りや毎月のGH会議で職員の認識の共通化に努めている。可能なことは直ぐにでも実践している。	職員は、日々の関わりの中で利用者の心に寄り添い本人の思いや意向の把握に努めている。利用者とは話を交わし、日常生活の中でちょっとしたつぶやきや行動、表情の変化などから思いをつかむようにしている。そこから得られる小さな情報は、全職員で共有し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報だけでなく、入居後の会話の中からこれまでの暮らしの把握を行っている。知り得た情報は、随時、生活歴として記載し、職員全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動・行動に注目し、日々の変化を情報を共有できるよう個人記録に出来るだけ詳しく一日の過ごし方を記載している。業務日誌や口頭での申送りを行い、全職員が現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者から、直接意見を聞いたり、日々の会話から意向を汲取っている。家族とは、面会時や電話等で日頃から十分なコミュニケーションに努め、意向を確認している。必要時、医療関係者と連携している。本人らしい介護計画を立てられるよう情報共有している。	本人や家族の意向を確認して関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。定期的にモニタリングとケアプランの見直しも行われ、担当者会議には家族の参加もあり、現状に添った介護計画で支援に臨んでいる。状態に変化が生じた時には、臨機応変に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全職員での記録とし、共有しながら実践している。ケアカンファレンスも定期的に行い常に見直しを行い、次回につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向や要望は個別対応とし出来る限り受け入れ支援に努めている。緊急の医療受診や入院時は可能な限りホームで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・実習生の受け入れ協力している。近隣住民、駐在所、民生委員、居宅介護支援事業所や地域包括センターとも連携し情報を得ながら、安全・安心した生活が出来るよう支援している。地域の行事への参加等積極的に出掛ける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人と家族の意向を聞き主治医を確認している。入居後も本人の身体および精神状態に合わせ、医療機関を紹介したり主治医の変更を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。また緊急時の対応についても主治医や家族と相談している。実際家族が付き添えない場合は職員が付き添っている。訪問診療により、定期的な健康管理が行えている。	利用者や家族の希望される主治医の受診を支援しており、主治医の変更は家族の希望で行われている。協力医療機関以外の受診は基本的に、家族の同行としているが、状況に応じて職員が代行し、適切な受診ができるように支援している。協力医療機関からは週1回の訪問診療が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で利用者の小さな変化や気づきは直ぐに看護師へ報告し相談している。また各利用者の主治医や協力医療機関の医師、看護師等に報告・連絡・相談しながら、日常の健康管理に努めている。指示変更時は、速やかに周知されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、家族に了解を得て診察等に同席させていただき、担当医から説明を受けている。医療機関にも情報提供を行っている。定期的に訪問し情報収集等も行っている。家族とも密接に連絡を取っている。(家族対応が困難な場合は当施設が支援している)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族には重度化した場合どうしたいか意見を伺っている。必要により協力医療機関の医師を交え方針を確認している。入居時には、本事業所のできる対応についての説明を十分に行っている。状態の変化に応じてその都度話し合いを持ち、家族の意向の確認を行っている。	重度化や終末期対応の指針があり、契約時に説明し同意を得ている。事業所のできることを、できないことを説明し、家族の意向を確認している。これまでに看取りの実績はないが、医療機関とも連携した対応への用意はできており、本人や家族が安心して納得した最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網・急変時研修に参加している。事業所にはAEDの設置と急変時対応マニュアルがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を実施、消防署立会で指導を受けている。事前に地域の方に、周知と協力をお願いしている。運営推進会議にて訓練の予定や実施状況、反省点を報告している。また地震や風水害時は防災マップ等で避難先を常に確認している。地区の防災訓練にも参加。	年2回消防署の指導を受け、夜間想定を含め、職員・入居者で避難訓練を実施している。地域の区長や近隣への声掛け挨拶を行っている。全ての職員は消火器や火災通報装置の使い方も熟知し、廊下にはヘルメットも準備され、非常食や水の備蓄も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分気配りをしたケアに努めている。名前の呼び方も本人の意思を尊重し、どう呼んで欲しいか聞いている。職員同士、言葉遣いに注意し合って介護を行うよう努力している。	理念にも、利用者を人生の先輩として敬い、利用者の立場に立って優しい笑顔で支援することを謳っており、職員は利用者と目線を合わせて、人格に配慮した優しい言葉かけと対応をしている。また個人情報の取扱いに対する職員の意識は高く、業務上の会話であっても声の大きさにも注意を払っている。ホーム便り等への写真や名前の掲載、居室の名札に至るまで入居時には承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・希望に添え自己決定を促し意志を確認している。利用者の話しやすい環境。日課や家事への参加、外出などは本人の気持ちを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、好きなように好きなところで過ごしていただいている。基本的な生活の流れの声かけを行い、生活リズムが保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣服は、本人の意向を伺い選択してもらっている。混乱される利用者については、職員が付添ったり選んだりして、適切な選択が出来るよう支援している。また訪問理美容があり、本人の希望の髪型を技術者に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好を知り、日々の体調や食欲を把握しながら食事の支援を行っている。その日のメニューは利用者の意見を取り入れつつバランスを考慮している。調理も野菜のカットや盛り付け、配膳や食器の洗浄など一緒に行い、自立支援に努めている。利用者には、副菜の混合わせや盛り付けを一緒に行っており、食後の片付け(テーブル拭きや食器洗浄など)を一緒に行っている。	献立は、その日の当番職員が利用者に食べたい物を尋ねたり、冷蔵庫の中身を見て考えて調理されており、家庭と同じである。手伝いをされる利用者もあるが、歳を重ねる毎に難しくなっているのが現状である。職員は食の細かい方には声掛けしながら時間をかけて介助している。職員も同じテーブルでお弁当を広げ、ゆっくりと和やかな食事風景である。また、誕生日祝いはイベントであり、ケーキが用意されるとのこと。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取時・量の観察。必要時、ST・OT・栄養士へ相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1回/年の歯科検診においてアドバイスを頂いている。毎食後、口腔ケアを促し見守りと自立支援に努めている。また寝る前に義歯洗浄を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握している。一人ひとりにあった下着や紙パンツ、パット類を使用している。尿意の曖昧な方へは表情や動作を汲取り意思確認している。	排泄チェック表を活用したり、本人のサインの把握で、職員は可能な限りトイレで排泄できるように支援している。おむつを使用されてる方も日中はトイレまで誘導し、排泄介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて把握。身体を動かすよう毎日体操や歩行訓練・散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は、週3回としているが、ご本人の希望や状態により変更している。身体介護に拒否がある方には、時間を変更したり翌日に変更したりと柔軟に対応している。また、状況に応じて必要時入浴・シャワーできるように努めている。	入浴は週3回を基本としているが、入浴できる準備は毎日できており、希望があればいつでも入浴できる。拒否が強い利用者には、無理強いせず職員の言葉かけの工夫や、入浴日を変更したりしている。入浴しない日でも肌着下着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。浴室では浴槽が中央にあることで両側からの介助がしやすい設計である。シャワーチェア等も活用しながら安全な入浴が支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファでいつでも休息出来る様に室温・湿度の調整を行い、環境づくりに努めている。不穏状態などで不眠な利用者については、申し送りを行い日中の過ごし方を調整するなどの支援している。眠剤を服用されている利用者については、服用後タイミングを図って就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認できている。看護師によるチェック対応あり。お薬説明書の活用している。看護師(管理者)への相談対応している。与薬時は、利用者の能力に合わせ介助し、内服されるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を基に、嗜好や生活習慣を考慮して家事・レクリエーションに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、戸外に出られるよう支援している。天気や気候に応じて散歩を実施、季節毎のドライブや花見を行っている。イベントにも参加し地域の方とも交流している。家族のイベントへの参加・協力にも支援している。	歳を重ねるごとに本人の口から外出の希望が聞かれることは少なくなっている。年間行事にあるドライブ等では、法人の車椅子対応車両を借り、全員城下ひな祭りなど季節に合わせた外出支援を行っている。また家族と外食に行かれる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来る金額を家族と合意の上で所持してらっている。買い物希望される場合は、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度対応している。暑中見舞いや年賀状作成。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は手すりがついており、幅も広い。照明にも気をつけ天気が悪い日は暗くならないよう調節している。季節ごとに作成した利用者の作品を廊下の壁に貼る事で、季節感を楽しみながら、往来出来るように工夫している。玄関の貼り絵も利用者と共に作り、季節感を出している。祝日にはリビングに国旗を掲揚している。リビングにはソファがありくつろいでいただいている。居心地良い環境作りに努めている。	リビングはキッチン仕切りはなく利用者は調理を見ながら過ごすことができる。天井は梁を見せる設えで高く室内は明るい。壁側にはソファが置いてあり利用者はゆったり過ごすことができる。事業所内は掃除が行き届き、気になる匂いや空気のおよみもなく気持ちの良い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファもあり、ゆったりと話ができるようにしている。状況により、声掛け・誘導により対応している。好きな場所に思いおもいに過ごすことができる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みのタンス・棚・テレビ等持んでもらい、本人・家族の好みに配置していただいている。入居後も必要なものは随時持ち込んでもらっている。室内の壁にはご家族の写真やペットの写真、レクリエーションで作成した作品などを飾っている。	職員は家族に利用者の使い慣れた馴染みの品の持ち込みを働きかけており、寝具も本人の使い慣れたものが使用されている。各居室にはクローゼットがあり、収納が出来ることで室内もすっきり片付いている。トイレの他に洗面台も設置されている。天気の良い日には布団も干され、家庭と同じように手間も惜しまない。家族が希望すれば居室への宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープ・手すりを設置。玄関にはチャイムにて直ぐに対応できるようにしている。トイレの場所や電気のスイッチなどに表示を工夫している。リスクの高い方にはセンサーを設置し対応している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない